

北海之光

5月号 北海道教区報

主にあってはあなたがたの
労苦がむだになることはない
コリントI 15章58節

発行所 北海の光社
001-0015 札幌市北区北15条西5丁目1-12
日本聖公会北海道教区事務所
電話 011-717-8181
FAX 011-736-8377
E-mail:hikari@nssk-hokkaido.jp
http://www.nssk-hokkaido.jp
発行人 植松 誠

逆 転

旭川聖マルコ教会牧師

稚内聖公会・留萌キリスト教会・深川聖三一教会管理牧師

司祭 ミカエル 広谷和文

イエスが息を引き取られるとまもなく安息日が始まりました。ユダヤ教の律法によって安息日には、一切の働きを休まなければなりません。イエスの遺体は、エルサレムに住むアリマタヤのヨセフが用意してくれた墓に納めることが出来ました。当時のユダヤにおける埋葬は、洞穴に部屋をつくって、そこに遺体を安置します。遺体には何度も香料を塗り、塗られた身体を丁寧に布で巻くのです。それは、長い時間をかけて行われる喪の営みでした。ところが、ヨセフと共に埋葬に立ち会った婦人たちも、安息日を前に、このような喪の儀式を行うことは許されなかったのです。

イエスを墓に納めた「マグダラのマリア、ヨハナ、ヤコブの母マリア、そして一緒にいたその他の婦人たちは、日曜日の朝早く、香料を持ってイエスの墓に向かいました。遺体は死臭を放ちます。それはイエスといえども例外ではありません。むしろ、十字架の上で血まみれになって死んだイエスの体は、恐ろしいほどの異臭を放っていたことでしょう。イエスの遺体を死臭を放つままにしておいたということが彼女たちの心を苛みました。せめてイエスの遺体に丁寧に香料を塗りながらお別れをしたい、「香料を持って墓に行った」というルカの記述からこのような女性たちの思いが伝わってくるのです。

しかし、香料が役に立つのはそこまでです。香料を塗ることによって、死のむごたらしさをいくらか隠すことは出来るかもしれませんが、香料や喪の儀式によって、死の現実そのものが揺らぐことはないのです。女性たちも、そのことは良く知っていました。何故なら死は全てのものの終わりであり、墓は虚無の溜まり場であるからです。墓のこちら側から、その向こうへ至ることは出来ません。ところが、この朝、彼女たちは墓のこちら側からではなく、墓の向こう、死の向こうから、墓を突破し、死を打ち砕いて命が現われるという出来事に遭遇したのです。

墓の入り口をしっかりとふさいでいた大きな石が転がされ、墓の中にイエスの遺体がありませんでした。そして、墓の入り口で「なぜ、生きておられる方を死者の中に捜すのか」という天使の声を聞くのです。彼女たちは、まだ復活のイエスに出会ったわけではありません。しかし、私たちはここに、希望の光が差し込んでいるのを見るのではないのでしょうか。悲しみと絶望と虚無に捉えられていた彼女たちを、イエス・キリストの復活の力が捉え、造り変えようとしているのです。まもなく彼女たちは復活の主イエスご自身に出会いました。その時、復活の証し人としての新しい人生がはじまったのです。キリスト教の信仰は、「死者

のよみがえり」への信仰です。それは、体は朽ちても、魂だけは残ると言う「靈魂不滅」への信仰ではありません。死は私たちの体と魂を同時に滅ぼします。しかし、私たちは、イエス・キリストの復活に与ることによって、体も魂も一緒に復活するのです。パウロはこのように復活に与る私たちの体を「霊の体」、また「栄光の体」と呼びました。全ての人々が「霊の体」、「栄光の体」として新しく再建されるのです。ですから、神にあっては、何一つ失われるものはありません。私たちの弱さも、嘆きも、悲しみも、神の新しい創造の礎として、祝福され、再建されるのです。私たちは「命から死へ」と至る人生を送りま

す。しかし、キリストの復活によって「命から死へ」の歩みは、「死から命へ」の歩みへと逆転するのです。イエスの復活を祝う私たちは、今、この逆転の信仰へと招かれています。この招きに応え、「死から命へ」への逆転を可能にする主の復活を証しする者として生きてゆこうではありませんか。



—心の窓をひらいて—

福音と私(二二六)



—今、なぜ、私はキリスト者として生きるのか—

札幌聖ミカエル教会信徒

プリスキラ 遠 藤 貴武子



好きな聖句
「言葉はあなたのすぐ近くにあり あなたの口に、あなたの心にある。」
(ローマ二〇章八節)

母方の祖父・林辰二郎は愛媛県出身で現在の深川市に移住し一九〇三年二〇歳で受洗し、祖母・富江は高知県生まれで、四国巡回の宣教師の定宿として居宅を提供していた関係で、その宣教師に導かれ若くして受洗の恵みに与りました。その後一家は納内に入植し、四国出身者でキリストを信じる者同士として結ばれ、後年曾祖父も導かれキリスト教一家となりました。

家業は深川市で風呂屋を営んでいましたが、一九一〇〜一九一六年に起きた三回の大火で類焼したため、街での生活を限り郊外に出ることとし、一巳町の亜麻工場跡地を入手できたので酪農業を始めることになりました。祖父は教会の礼拝を休むことはなく、信仰の拠りどころである教会に行くことで平々な日々を過ごすことができると信じていたようです。毎日の夕食前には、住込みの労務者も含めて家族全員が聖歌、聖書朗読、祈りを捧げる一五分位の日課があり、お腹を空かした子どもたちには苦痛だったとの話です。労務者の中で三名が祖父に導かれて受洗しました。祖父は穏やかな人格者で、馬でも牛でも鞭打つことなく、牛舎には「牛は我が家の宝」と貼り紙されていたそうです。残念ながら五二歳の若さで病死したのですが、一年間の闘病生活中も、見舞いの人々に信仰の幸せを説き、信仰一筋を貫いたとのこと。私は祖父の死後の誕生なので会うこ

となく、話を聞きたびに会いたかったとの思いがつのるのでした。

私は一九三九年秩父別村でクリスチャンの両親田所正幸・愛子の長女として誕生し、百日目に深川聖三一教会で木村信一司祭から洗礼を授かりました。幼児期には両親が毎週教会に連れて行ってくれたようです。その後、父の転勤で旭川に移住し父の両親(秋太郎・君江)と同居の生活になりました。この祖父母は和歌山県出身の一巳屯田兵で、後に林辰二郎の導きで受洗しました。

旭川では戦時中のため教会に行くことができず、父も応召し祖父母・母・弟・私の五人暮らし、更に病身の誠幸叔父(父の弟)が加わり六人での厳しい生活でした。

毎夜の空襲警報で防空壕に入れられ、ある日突然恐ろしい顔の男のひと三人が土足で家の中に入り込み、叔父の部屋の本棚をひっくり返して何も持たずに出て行きました。叔父が東京でキリスト教の学びをしていたのでスパイと疑われたのだと話してくれましたが、時々それらしい人が周囲を回っていました。その年の秋に叔父は

結婚で亡くなり、母が旭川の教会に葬儀のお願いに行きましたが、無牧で対応してもらえず、家族と数人の知人が自宅に集り、灯火管制の下、戸外に漏れないようにローソクを一本灯し、小声で祈りと賛美を捧げたものです。

NHKの朝ドラ「なつぞら」で放映される戦後の悲惨な状況の映像を見るたびに、幼少期の辛さが目に浮かびます。

口まで子どもの足で五〜六歩でした。この教会に、北大生の小貫嗣夫さんが住まうことになりましたが、教会には給水設備がなかったので、バケツで水を裏口に運ぶのが弟と私の日課となり、教会との繋がりが強くなったのです。

良い思い出のない旭川生活でしたし、戦時色が濃厚となりましたので、伯母の勧めで秩父別村の空家に一九四五年春に引越し、五人家族の生活で少し安堵しました。空は広く山は美しく、広大な原野が続く新天地が与えられたようでした。教科書が違う地域になったので、母がワラ半紙に手書きでコピーしてくれました。冬は厳しい自然でしたが、父の復員を待ちつつ母が懸命に支えてくれましたので辛いこともありましたが、一九四七年父が無事帰還したので思い出深い土地となりました。

私の両親は深川で小貫安貞先生の教えを受け、嗣夫さん、雅夫さんをよく知っていました。三年後の一九五四年教会は現在地に移され増改築、幼稚園併設、聖ミカエル・ホールが建設され多くの人々が集まる教会に成長しました。

今まで多くの牧師さんにご指導いただきましたが、中でもB・D・タッカー先生には感謝するばかりです。

ふくじゅ園やミスマイググループの礼拝出席、タッカー通信三五〇部の印刷と発送、キリスト教問答の原稿整理などの奉仕を通じて、ぶれることのない信仰の強さと弱き人々への思いやり、淡々と続けられる仕事の大切さを学ばせていただきました。

大友先生には現在もご指導いただき感謝です。

雨宮先生と同行した高齢者宅の家庭訪問では、じっくり、ゆっくり相手の話を聞く姿勢に学ばせていただきました。

一九四九年初冬現在地に移住し、二年目の一九五一年夏、家の隣に深川で見慣れた人やカラーをした牧師さん方が集まり小さな教会を建て始めたのには驚きました。教会の裏

三頁下段に続く

常置委員会報告

第六回 四月二十五日

協議事項

一、教区礼拝及び「教区の日」礼拝献金の奉献先に関する件
・教区礼拝の信施は、各教会の「教区の日」礼拝(五月

一九日)の信施と合わせ、①エルサレム教区(パレスチナ)の諸教会のため、②アフリカ南部を襲ったサイクロン・イダイにより被災した聖公会の諸教会のために奉献する。
二、ホレンコ幹事選任の件
・昨年同様とする。
三、社会福祉法人聖公会北海道福祉会理事、監事選任に関する件
・理事は前期同様とし、監事は新たに選任する。
四、「イエスの小さい姉妹友愛会稚内の家」閉鎖に関して
・長年の交わりに感謝し、献



主教室より

礼拝に来れる信徒が一人になつてしまつた稚内聖公会ですが、その巡回ではいつも何か特別な感動とお恵みをいただくような気がします。時には私と妻とそのお一人の信徒だけの礼拝。時には旭川から牧師ご夫妻と信徒数名が来てくださいます。そして、いつもお会いするのはカトリックの「イエスの小さい姉妹の友愛会」のシスターたちでした。礼拝で一緒に出来ることもあり、帰りにお訪ねすることもあり、いつもほんの短いお交わりでしたが私たちにとって大きな励ましと祝福をいただきました。そのシスターたちがと

うとう稚内の地を去ることとなつたのです。イエスの小さな姉妹たちの修道院は六三年前、当時、共産主義体制下にあるソ連の人々を覚えて祈るために、日本の最北端である稚内に建てられました。小さな民家を借り、一部屋をお御堂に、大切な祈りの場として生活の中心に置いておられました。お御堂に座ると、その空間には涙が出そうになるくらい深い祈りが満ちています。シスターそれぞれが、海産物加工場や病院などで働き、時には自分たちで作つたものを売つて生活の糧を得ながら、祈りに専念し、地域の人々にも仕えられました。今回稚内を去るにあたり、近所の方々、仕事仲間

だつた方々を、お一人ずつ食事に招いておられるようです。それは、それぞれにいろいろな事情があり、「その方」だけのために時間を割いておられるのでした。私たち聖公会の者たちもシスターたちにいつも大事にしていただきました。信徒ではなくても、真摯に向き合い、大切にされた多くの人たち。誰もがシスターたちに心を開き、話を聞いてもらい、祈ってもらいました。「神の国の実現」はこんなところにこそあるよな気がします。今回、稚内から福島に引っ越され、未だ原発に苦しむ方たちに寄り添われます。今後のお働きにも豊かな祝福を祈ります。

主教 ナタナエル 植松 誠

金を捧げる。教区主教巡回の折、植松主教より直接お渡しする。
五、宣教活動推進部の「クラスト・ミーティング」開催の件
・開催を承認する。詳細および適切な実施方法について、さらに検討を加えるよう要望する。

堅信式受領

おめでとう

帯広聖公会

ガブリエル 受川 岬央
マルガリータ 受川 みお
(四月二日)

十 教区逝去教役者 記念聖餐式

六月二日(水)

午前一〇時三〇分 於 主教座聖堂

次の方々を覚えて祈ります。

司祭 渡邊 英 治

一九八三年六月一四日

伝道師 元城 佐吉郎

一九二四年六月二八日

執事 本田 憲之

一九一八年六月三〇日

二頁より続く

李先生は家庭訪問が大好きで、気になるお宅には何度も訪問し、本当に篤いお祈りをされ、いつもみ言葉に従つて人に接する態度を貫きました。李先生の勧めで始めた家庭集会は七年半が過ぎました。持ち寄りの夕食、差し入れのデザート、聖歌、一週間の生活の分かち合い、祈り、聖歌主の祈りがコースです。み言葉に触れ、自分たちの言葉で祈り、助けられ強められて養われることを実感します。もう少し続けられるように、神様の導きを願っています。

受洗から間もなく満八〇年いつも神様に支えられ、健康で日々過ごせることに感謝し、与えられる業を誠意をもって続けたものです。何よりも若い人々への信仰の継承の大切さ痛感しているこの頃です。

最後に、祖父林辰二郎がいづも首から下げていた小さな寸珍聖書の余白に記載された言葉をお伝えします。

○基督教は小さきと大なると差別なし。なんじ小さき者と大なる者との差別なく親切と誠を以て行ふなり。これは衆の徳の帯なり。

○基督の為になんじ死ぬべし。



▽帯広聖公会

肌寒さが続く中、二〇度を超える七月並みの陽気の日もありました。幼稚園は九日に入園式が行われ、二八名の新園児を迎えました。

二一日のイースターは植松主教様の巡回日でした。受川岬央さん、みおさん兄妹が堅信の恵みに与り、多くの仲間と喜びを分かち合うことが出来ました。お二人のこれからの歩みに神様の祝福がありますように。

礼拝後の愛餐会は婦人会を中心とした、持ち寄りの料理がテーブルを賑わし、小椋愛純さんの演奏するピアノの音色に心を癒されたひと時でありました。

主に感謝いたします。
▽新冠聖フランシス教会

主のご復活おめでとうございます。「イースターは、春分の日を過ぎて最初の満月の後の日曜日と決めたのです。それにしても今年は遅いほうですネ」などと説教のマクラに使っていました。喜びの日を迎えることが出来ましたことを心から感謝いたします。

出席者は一八名で、かわいいらしいお友達の上ことねさん、こはるさん姉妹もおいでになりました。ことねさんは五年生、こはるさんは二年生です。小竹淳子さん、熊谷智恵美さん、本田久夫さんも祝福に与りました。

▽有珠聖公会

四月二八日、植松主教様をお迎えして一週間遅れのイースター礼拝。植松三千代さんの力強いオルガン伴奏で二〇名の会衆も元気に復活の主を賛美しました。礼拝後、お茶会を楽しみました。夕刻、大町司祭は病床等信徒訪問へ。

翌二九日「三浦綾子読書講

演会」を開催。三〇名の参加者を得ました。三浦綾子文学記念館の森下辰衛先生は「愛の鬼才西村久蔵の歩んだ道」について語られる。会では、茅野千草さんより父としての西村久蔵氏についてお聴きする貴重な機会も得ました。

▽小樽聖公会

四月一四日(日) 礼拝後、大斎節プログラムとして、米国聖公会の現在の教会とエピソードをモデルとした二〇一七年のアメリカ映画『オール・セインツ』を鑑賞。教会の現実や抱える課題に共感させられ、また考えさせられました。

聖金曜日・受苦日の礼拝は合同礼拝ではなく教会で行うことが回復され、礼拝出席者も多く与えられました。復活日の礼拝後には祝会も行われ、心づくしの料理をいただきながらの楽しい交わりのひとときとなりました。

▽稚内聖公会

四月二六日、主教さんご夫妻を迎えて復活日礼拝。本原さん、旭川の「ワッカナイ・

イースター・キャラバン」一行六名、「イエスの姉妹会」のマドレーヌさんとペロニカ春子さんの一〇人で主のご復活を祝う。続いて、イースターのお祝い、主教さんの歓迎、そして五月に福島に移られるシスターたちへの激励を兼ねたお茶会を開催。紅茶で乾杯のあと野村学さんのマジック・ショー。懐かしい話で盛り上がった。キャラバン一行は、主教さんを迎え、稚内駅近くの「夢広場」で会食をする。

イースターおめでとうございませう。晴天の日の午後の礼拝と愛餐会でした。体調が悪い方が多く、来客の方を含めて八名の出席でした。これまでも使っていないかった聖歌が二曲あり、歌うと何か新しい気持ちとなった礼拝でした。

▽平取聖公会

統一地方選挙で平取町は町議会選挙があり、井澤さんが無投票で再選されました。全道一の生産量のびらとりトマトの出荷が四月の連休前から始まりました。

▽保良聖公会

保育園は四月一日より六〇名で保育が始まっています。

▽苫小牧聖ルカ教会

厳しい冬の寒さを凌ぎ、暖かい太陽の光を待ち望みながら復活祭を迎えます。

四月に入り、棕櫚の十字架作成、幼稚園の入園式、教会委員会、聖木曜日礼拝、イースターの礼拝と祝会。お恵みのうちに新年度へ出発です。

間もなく元号も変わり「令和」となる時代はどのように変化してゆくのでしょうか。私たちは、何時の時代でも神さまに心を向けて、信仰の道を歩み続けます。

▽紋別聖マリヤ教会

神さまの愛と恵みに感謝。四月に入り、気温等の寒暖差が激しく人間も家畜も圍場も著しく優れない日々が続いております。

▽二一日、イースター礼拝

最近では、クリスマス商品と同様イースター商品が店頭にも並び、教会の大きな礼拝として理解を示す方が増えつつあります。幼稚園では、八日の始業式から新学

期が始まり、翌九日には第六四回入園式が行われ、一八名の園児が入園されました。

略農が盛んな紋別では、粗飼料の播種が始まります。

▽函館聖ヨハネ教会

大斎節は、毎週礼拝の最後に、堂内の壁に掲げられたキリスト十字架の道行きの絵画の前で祈りを捧げました。

イースターの祝会は藤井司祭のお孫さんのヒマリちゃんヒマリちゃんの素晴らしい「お祈り」で始まりました。上野隣リ愛ちゃん、恵慈ちゃん姉妹のピアノ演奏披露も見事でした。

四月二十八日は、午後から聖堂コンサート(ジャズ)が行われました。谷岡穰(トランペット)・藤田洋一(ピアノ)・吉村徳泰(ベース)・JENNIE藤田(藤田紗耶可)(ドラム)で、「黒いオルフェ」など九曲を披露。一五〇名を超える聴衆で大盛況でした。

四月二十九日は、日曜学校主催のお花見遠足でした。カタクリのきれいなピンクの花が咲く匠の森でバーベキュー。蝶を追う子ども、サッカーに

興じる子どもと大人を「熊出没注意」の不気味な標識が見つめていました。

▽旭川聖マルコ教会

四月六日頌栄保育園入園式、七名の新入園児を迎え新年度がスタート。七日、「婦人会便り」第五〇号記念号発行。一四日午後、恒例のイースターの案内チラシを近隣へ配布。二〇日午後、「子どもイースター」が行われ、子ども達とイースターエッグを作りました。二一日イースター礼拝、有木サカエさんの洗礼式が行われました。教会報「群」発行、礼拝後の祝会では、定番になったマルコムぐら氏によるマジックショーが行われ大盛り上がりでした。二十八日、昼食後、マルコ講座が行われる。来週五日はお花見の予定、さて、マルコの桜の開花はいかに？

▽新札幌聖ニコラス教会

今年の大斎節プログラムは下澤司祭、上平執事による講話で礼拝についての学びの時間を持ち、復活日を迎えた。月一回の礼拝後の聖書を読む会

も四回目となる。教会委員会では地域で行う教会行事についての意見交換を行う準備を進めている。またマリア会は新しい形での活動に向けた検討を始めた。どちらも教会のこれからを考える試みである。四月に入り新しい方が礼拝に見えてくる。

上平執事は病者や高齢信徒の訪問を着実にこなし、五月からは神愛園清田で礼拝奉仕が始まる。働きに感謝。

▽札幌聖ミカエル教会

一〇日、幼稚園入園式。今年の新入園児は泣く子が多いかと思いきや、あつという間に慣れてしまう。棕櫚の日曜日、大友、横山両司祭による礼拝にて聖週を歩み出す。聖木曜日の夜は今年も洗足を行う。復活日、幼稚園職員、保護者の方々も加わって一五〇名で礼拝を捧げました。子ども、大人の聖歌隊が活躍。祝会では持ち寄りの料理を楽しみ、幼稚園、手話の会、聖歌隊が歌を披露。新たに設置された付属施設将来検討委員会は、旧国際青年寮建物の今後

の利用法を検討中です。一〇日、北大センター寮で寮母としてご奉仕下さったルデヤ平田サダさんが天に召される。九三歳。主の平安をお祈りいたします。

▽札幌キリスト教会

七日、入進学・進級者の祝福式。青年による証「旅する青年」の第二回、橋本瑠可さんから聴く。聖木曜日は「過ぎ越し」を記念する食事会に多数参加あり。夜の聖餐式では「洗足式」が行われる。

復活日には、三回の礼拝に約二百名の参加あり。高田美樹さん、小倉千枝子さん、小倉由美子さんが受洗。祝会では、竹花・福島両兄の司会で新たな風を感じる。ウルトラマンの替え歌「光の国から僕らのために来たぞー我らのイエス様」で一同大盛り上がり。不調が続くパイポルガンの修復検討委員会が始動。

▽岩見沢聖十字教会

四月九日、入園式。希望に満ち溢れ門をくぐる。日本ギデオンの協会からの聖書を贈呈。職員四名も新たに加わる。

イエス様と共に歩みましょう。

二二日、大友正幸司祭司式による復活日礼拝。内外から多くの方が出席。礼拝に初めて出席した新職員も祝福を受ける。福音に触れて感謝。

二八日、池田亨司祭司式による平成最後の聖餐式。札幌聖ミカエル教会の遠藤ご夫妻が訪問。共に恵みに与る。

戦争がなかった平成。時代は令和へ。国民の幸せと世界平和のために私達も祈ります。

▽留萌キリスト教会

イースターおめでとうございます。晴天に恵まれた朝、寧楽共働学舎の毛利夫妻や手芸の会の五十嵐さんとご友人が来て下さいました。名寄の藤井夫妻も加わり合計二三名で、ミニ・バザーも楽しく開催できました。名寄カレーとお取り寄せのオードブルのお祝い膳でした。

最近、教会の床が綺麗です。部屋の空気も爽やかに、咳やくしゃみが減りました。お掃除ロボットの仕事が素晴

らしいのです。健気に励む様子を、ついつい見つめてしまいます。たいしたものです。

▽聖マーガレット教会

例年より早い春の訪れを感じながら、一〇日は婦人会のお仕事で棕櫚の十字架作りをしました。二二日のイースター礼拝には約六〇名が集い主のご復活を賛美し喜びを分かち合いました。久しぶりに会う方々もいて、笑顔あふれる礼拝となりました。礼拝後は恒例の集合写真を撮影し、笑いもある中、毎年写る顔ぶれが変わっていくことを寂しく感じる時でした。

そして、祝会は婦人会による恵み豊かな食卓を皆で囲み楽しい時をもつことができました。感謝

▽釧路聖パウロ教会

▽厚岸聖オーガスチン教会

四月一四日み言葉礼拝では棕櫚の葉を手に入堂、勧話では「十字架への道」の聖劇を全員参加で行いました。一九日受苦日礼拝の前にオリーブ会で教会掃除と、ゆで卵のラッピング。可愛さに笑みが

こぼれます。

イースターの朝、いつものチラシ寿司に加えそれを装う持ち寄りの一品(司祭曰く)の多さに胃袋も満足。ビンゴや絵本の読み聞かせもあって、童心に返り和やかなひと時でした。教会の近隣の方や保育園の先生にもイースターエッグのお裾分け。保育園の駐車場も整地され畑も出来て秋の収穫が楽しみです。

厚岸の教会では、玄関の石段が崩れていましたが、いつの間にか隣の住居者さんが修理してくれていました。感謝。

二一日早朝セシリア飯田澄子姉が天に召されました。魂の平安とご家族に主の慰めがありますよう祈ります。

▽深川聖三一教会

四月六日深川あけぼの保育園第四七回入園・進級式。主教様と教会代表甲斐富美子さんから祝辞をいただく。同日午後同保育園の改築落成式を理事長植松誠主教が執行、深川市長山下貴文代臨席祝辞を賜り、近隣のひとびと多数と盛大に祝う、感謝。七日主教

巡回日、主教様の近況とご活躍を拝聴。一日保育園職員会議で主任から投薬手引きの指導がある。一九日聖金曜受苦日の礼拝。二一日復活祭を祝う。保育士多数礼拝を共にす。感謝。二八日婦人会、西原廉太司祭の名著『聖公会が大切にしてきたもの』を読了。感謝。

▽網走聖ペテロ教会

復活日おめでとうございませ。復活のときを覚えて常に主と共に歩む幸せをかみしめております。三日(水)和姉宅で大斎家庭集会有り五名が集い証について学びのときが持たれた。いつも皆さんに祈られている「のあ」の関係では高卒三名の引越し、就職、進学があり可愛い入学式、新しくホームに一歳の女の子が舞い込む。その後二人の兄弟が加わり、一気ににぎやかになる。すべてのわざには時がある。泣くに時があり笑うに時があり。主に感謝

▽北見聖ヤコブ教会

四月一日ヨセフ小澤勇夫兄が逝去。司祭、祈りにかけつ

け三・四日市内の斎場にて葬儀が仏式で行われ多くの教会関係者も会葬されました。魂の平安と永遠の光明をお祈りいたします。受苦日礼拝は十字架上の七聖語を黙想。復活日礼拝は一三名で主のご復活をお祝い、赤ちゃんの声と笑顔のある祝会でもありました。翌日司祭はイースターエッグを持って四名の方を訪ねました。司祭はY M C A 開講式ファミリーホーム協議会、ケズイック感謝会その他がありました。すつかり春です!

▽室蘭聖マタイ教会

四月七日藤井兄によるみ言葉の礼拝。

一四日、吉野司祭によるシユロの十字架礼拝。主イエスのご受難の週に入る。

一九日藤井兄による受苦日礼拝。後教会掃除。二一日藤井兄でみ言葉の礼拝。吉野司祭のお勧めを拝読。

田中兄が玄関にポストを付けて下さり感謝。

二八日植松主教、夫人を迎えて一週間遅れのイースター

礼拝。「トマスの迷いも晴れわたたりて」を声高らかに歌いました。久し振りに白老より小林望さんもみえ共に祈る。寿司、外沢山のご馳走に満腹、感謝の一日でした。

▽今金インマヌエル教会

四月一四日主教様御夫妻をお迎えして種の祝福礼拝が行われました。祝会では土鍋蒸しにちらし寿し、フライにおでんにモンブランそれぞれの手料理を持ち寄り、気早にも秋の実りに思いを馳せながら楽しい時を過ごしました。二一日には復活日礼拝が無事守られた事に感謝します。今年も雪解けも早く馬鈴薯に稲の種まきビートの植え付け等も順調に進んでいます。そしていよいよ境内地の植樹案を具体化するべく、胡桃に栗にさくらんぼ…つい食べられる物ばかりになってしまってます。

お詫びと訂正

「教区内プログラム予定」の訂正をお願いします。旭川聖マルコ教会主催の「マルコバザー」

誤 八月二十九日(日)
正 九月二十九日(日)

北海道教区宣教推進部